会議概要

1	審議会　　令和８年度　第１回　安曇野市農業農村振興計画推進委員会
2	日　時　　令和８年６月 24 日（水）午後１時 30 分～午後３時 30 分
3	会　場　　本庁舎４階　大会議室
4	出席者　　佐原委員長、小山田副委員長、降簱委員、東本委員、髙橋委員、安田委員、米山委員、帯刀委員、唐澤委員、吉澤委員、柳原委員、北村委員、藤本委員、内川委員、矢野委員、細萱委員
5	市側出席者　大月農林部長、高山農政課長、麻田耕地林務課長、その他農林部および農業委員会所属の事務担当係長等
6	公開・非公開の別　　公開
8	傍聴人　１人　　記者　０人
9	会議概要作成年月日　　令和８年７月２日（木）

協　議　事　項　等

１．会議概要

（１）開会

（２）農林部長あいさつ

（３）委員長あいさつ

（４）新任委員の紹介

（５）協議

以下、会議の特記事項について記載する。

２　新任委員の紹介

・新たに細萱稔氏を委員に選任

３．協議

（※以下、発言者を　●：委員（委員長含む。）、□：事務局　で表記）

（１）　令和７年度農業農村振興計画の進捗状況の点検作業と評価および重点プロジェクトの実績報告について

（事務局から、資料１―１、資料１－２、資料２に基づき、令和７年度農業農村振興計画の進捗状況等について説明）

（以下、委員からの意見等）

●水稲について、周囲でも加工用米や麦を減らして食用米に回す動きがある。

●数値データは多く示されているが、市内のどの場所でどのような状況が生じているのか、違いがあるのか一律的に同じなのかが分かるとよい。数値データと空間データの両方があると策定時により分かりやすい。場所のデータというのはあるのか。

□基幹作物について、地域的なものをまとめたデータは特にはない。面積のようなものは別の

ところで管理しているが、今回は資料として出していない。そのデータを合算したものを資料として掲載している。

●第４次計画では、市全体の目標だけでなく、地域ごとの状況や特性を踏まえた積み上げ型の目標設定が望ましい。地域ごとの差異を施策に生かす必要がある。

●重点プロジェクトについて、多様な取組が行われていることは理解したが、来訪者数、販売効果など、取組の効果を示す数値データはあるか。
□重点プロジェクトに関する効果分析は十分に把握できていない。第４次計画に向けて検討する。

●せっかく実施している取組であるため、モニタリングを行えば、次期計画で継続する事業の比較ができるのではないか。

●新宿でのマルシェにおいて、来場者にアンケートを取ったところ、「安曇野市」という名称の認知度はまだ浸透していない印象があった。まずは「安曇野」という名前を覚えてもらうことが重要である。
□国内では一定の認知があるが、海外では「安曇野」の認知度はほぼ皆無。安曇野といえば「これ」という目玉を打ち出し、特産品と合わせて安曇野の名称を覚えてもらうことが必要である。海外向けには、特産であるわさびをキーコンテンツとして発信している。国内でもわさびやりんごを特に目玉として PR していきたい。

●観光分野との連携として、移住定住課と連携した「あずみのワーキングホリデー」の開催や、インスタグラム等の SNS による情報発信を行っている。インバウンドに関しては、英語の公式 HP や SNS を使って発信している。グリーンシーズンは松本市、ウインターシーズンは白馬に来ている観光客に向けて色々な施策を行っていく予定である。

●直売所では、千葉県や三重県などりんごの直売所がない地域へ出向いて販売するなど、PR の観点から積極的な活動を行っている。売上実績は上がっているが、観光客の戻りはコロナ禍前の水準には達していない印象がある。なんとか県外の観光客に PR して呼び込んでいければよい。

●ほりがね物産センターについても、バスツアーの客が戻ってきていない印象がある。

（２） 第４次安曇野市農業農村振興基本計画の基本計画案について

（事務局から、資料３、資料４に基づき、基本計画案について説明）

（以下、委員からの意見等）

●「生産性の向上」と「付加価値の向上」は密接な関係にある。物価高騰の中では、生産コストが非常に高くなっている。しかし、それに伴う農産物への価格転嫁がなかなかできないという状況であるので、「付加価値の向上」を高めていく事が重要になってくる。

●農産物を生産する環境は非常に厳しい。「安曇野ブランド」という付加価値は非常に大きい。生産性や付加価値の議論は、基盤強化の取組と関連付けて考える必要がある。生産し、それをしっかり「安曇野ブランド」というバックボーンの中で、まとまった量のある産地という所が「付加価値の向上」につながると考えている。

●「守る」の施策の柱に「安曇野らしい田園風景」とあるが、「安曇野らしさ」とは具体的にどんなイメージをしているのか。

□世界農業遺産を意識した概念として整理している。

●「農と生きる」の中にある「農業への理解の醸成」については、多様な人が農業と関わる視点を含めて整理する必要がある。「農村への理解の醸成と多様な参画」のような言い回しでもよいのではないか。

□検討したい。

●「農村」という言葉や概念についても、計画の中でどのように扱うか検討が必要である。農業だけでなく、農村の暮らしや集落維持の視点も重要である。

●担い手の確保・育成では、農家だけでなく、若者、移住者、女性、障がい者、退職者など、多様な人材が農業に関われることを強調するのがよい。担い手が増えないと、物量も確保できない。そうしないと安曇野のブランドも育っていかないのではないか。担い手も含めて色々な人たちが活躍できる農業を進めてもらえるような文言を入れてもらいたい。

●田んぼが減っている印象がある。それから高齢化と担い手不足が多く見られる。

●「農村」という言葉について、産業としての農業ももちろん大事だが、草刈りや水路のそうじなども多様な人材に参画してほしいという意図で付けた。「農業”農村”振興基本計画」なので、「農村」を付けてもよいのではないか。

（3） 第４次安曇野市農業農村振興基本計画の振興計画案について

（事務局から、資料５、資料６に基づき、第３次安曇野市総合計画策定方針について説明）

（以下、委員からの意見等）

●課題として人手不足が挙げられているが、第３次計画の施策運営の中で明らかになった人手

不足の課題が、第４次計画で十分に活用されていない印象がある。
□第３次計画からのフィードバックが見えづらくなっている点は課題である。
新しい立て付けの中でカテゴリーごとに課題として整理し、対応していく。

●資料からは第３次計画と第４次計画の連続性が読み取りづらい。第３次計画の振り返りをどのように第４次計画へ反映したのかが分かるように整理すべきである。

●地域ごとの違いを踏まえる必要がある。市全体で一律に施策を進めるだけでなく、地区ごとの課題や特性を反映できる形が望ましい。空間データを加味してもらえるとより具体的になってよいのではないか。

●地元食材をより知ってもらうため、小中学校に出向き、伝統食、伝統野菜を知ってもらうための食育に関する活動を進めていきたい。

●学校給食を通じて、子どもたちが安曇野市の農産物を楽しみにしている状況もある。お弁当の日に、市から食材を提供してもらってそれを使ってお弁当を作る取組もしている。

●安曇野市の水源や水について、施策単位で計画に記載する必要はないのか。
□水源や水に関する事項は、環境分野の計画で整理されるものと認識している。

●水源は農業にとって必要不可欠なものであるため、本計画にも確実に記載してほしい。

（４） 第４次安曇野市農業農村振興基本計画の重点プロジェクトについて

（事務局から、資料７に基づき、重点プロジェクトについて説明）
【農ある暮らし】
●農作業に伴う道路への泥、草刈り音等に対する苦情が寄せられることがある。

●農薬散布についても苦情やトラブルになることがある。農業者と周辺住民が互いの事情を理解するための取組が必要である。

【環境調和型農業への取り組み】
●長野県の「環境にやさしい農業」は、自助努力や経験則に基づいて行われている部分が大きい。組織による技術指導があれば、農業者にとって有効である。

●米穀関係では、特別栽培米のように指導を受けている農家がある。一方で、果樹については体系的な指導が十分ではない。ただし剪定枝等の取組みについては、JA でも進めている状況

である。

●果樹の防除に取り組んでいるが、収量が確保できなければ農家の生活が成り立たない。環境配慮と収量確保の両立が重要である。

●土壌診断を行いながら化学肥料の低減に取り組んでいる事例がある。カーボンクレジットの活用や、みどり認定の取得についても取組が進められている。サポート体制が整うと農家としてもありがたい。

【食と農でつながる地域循環の推進】

●地産地消マイスターは、小中学校での食育や、若い女性農業者、子どもたちへの伝統行事の継承など、地道な活動を続けている。

●伝統食を今後どのように守っていくか市として考えがあるか。

□伝統食の継承について、地産地消マイスターの日頃の尽力に感謝している。伝統食については、収穫の時期に地元で採れたものをお供えして地域のみんなで食べるといったことを昔からやっており、そういった暮らしぶりを子供たちに伝えていく、といったことを重点プロジェクトの中でマイスターの方々と連携して行っていきたい。

【その他】

●安曇野市では地下水を汲み上げて商品化しているが、わさび農家に影響は出ていないのか。

□わさび農家に直接ヒアリングしているが、水量の増減については農家によって受け止め方が異なる。表面温度が高くなっているという現状もある。水が湧かなくなったという声もあるが、それが地下水の汲み上げによるものか、水の流れの変化によるものかは不明である。

●安曇野市では、井戸を掘りたいと申請すれば誰でも掘れるのか。

□農政課の所管ではないため、次回改めて回答する。

●安曇野市中で水を掘ってしまい、水が足りないとなってしまっては困る。市内である程度規制はあるのか。併せて確認したい。

４．その他

（事務局）

・次回会議は令和８年７月 29 日 13 時 30 分から開催予定